

平成28年度 学校評価シート（湯沢翔北高等学校）

目指す学校像	まごころと思いやりの心を大切にし、新たなものを創り出す意欲にあふれ、自らの力でたくましく生き抜く人間を育てる学校
--------	--

重点目標	1 規範意識の醸成 2 授業力の向上と学習習慣の確立 3 キャリア教育の充実と進路指導の工夫改善 4 専攻科の運営と本科との連携
------	---

達成度	A	ほぼ達成
	B	概ね達成
	C	変化の兆し
	D	不十分

出席者	学校関係者	5名
	教職員	5名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				平成28年度評価（2月15日現在）			
番号	現状と課題	具体的な目標	目標達成のための方策	具体的な取組状況	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒会が主体となって全校生徒を巻き込んで、挨拶運動やいじめ防止に取り組み、成果を上げている。 社会人として他者と豊かで良好な人間関係を構築できる資質を育むため、ネットトラブル防止等を含め、より高い社会性と規範意識を醸成する必要がある。	① 基本的な生活習慣の確立と確かな倫理観に基づく規範意識の向上 ② 自他を尊重し、自主的・主体的に行動する態度の育成	ア 専門指導による挨拶・整容指導及び交通マナーの徹底 イ 時代に即したネットの活用及びモラル指導の徹底 ウ いじめ実態調査と各種調査分析による指導の徹底 エ 文化的活動や体育的活動による豊かな人間性の育成	①規則やマナーの遵守、事故の防止、問題の早期発見と早期解決について、生徒と職員とのつながりの強い場面（授業や部活動）で指導する機会を増やす心がけた。 ②いじめの実態調査を行い、4件をいじめと認知し、指導した結果すべて解消できた。 ③生徒会各種行事では生徒に自主的・主体的に企画・運営させた。	①問題行動の発生件数が少なかった。SNS上の配慮のない軽率な投稿が、生徒からの指摘により発見され指導できた。 ②生徒会行事や部活動は、生徒の主体的な取り組みのもとに実施されており、保護者アンケートでも高い評価を得ている。一方で部活動の終了時刻が遅いと指摘がある。	A	①規範意識に欠け、軽率な判断によって発生している問題を減少させるため、予防的指導を充実させる。 ②本校生徒会の各種行事や部活動への取り組みは、開校以来の伝統となりつつある。豊かな人間性の育成のため今後も継続していきたい。 ③部活動終了時刻を徹底するとともに生徒を通じた保護者との連絡も確実にする。
2	授業第一の共通認識を持ち、組織として授業改善に取り組んでいるが、多様な生徒を抱え、生徒の学習習慣の確立や基礎学力の定着に課題がある。 更なる授業力の向上に取り組むとともに、3年間を見通した教科指導の在り方を検討する必要がある。	① 基礎学力の定着と向上のための更なる授業力の向上 ② 主体的な学習習慣の確立	ア 研究授業や教員相互の授業参観（互見授業）の実施 イ 組織としての授業改善の推進 ウ 家庭学習時間の確保と予・復習の徹底	①互見授業を推進し、参観記録の提出率は77%であった。 ②言語活動構想図シート（簡易指導案）を使用して、国語、地歴公民、数学、理科、英語の各教科が到達目標を意識した授業研修を実践した。 ③各教科で課題提出や小テスト等日常的な指導を充実させた。 ④毎日の家庭学習時間・内容や予定を記録させ、学習時間の確保と振り返りに活用している。	①組織として授業改善をしようとする意識が高まった。 ②学習状況調査や定期考査の結果から生徒の学習習慣の確立や基礎学力の定着は不十分である。 ③土曜日の全員補習を年9回実施し、学力向上と学習時間の確保に役立てた。	C	①積極的な互見授業により到達目標を意識した授業づくりを推進する。 ②家庭学習時間の確保と予・復習を徹底させるため家庭学習と授業をリンクさせ、指導の工夫に努める。 ③基礎学力の低下に対応した義務教育段階の学習内容の学び直しの取り組みと身に付けるべき「翔北スタンダード」の策定を行う。
3	計画的なキャリア教育を推進し、市民性を育むための各種事業を積極的に展開している。 生徒の進路意識の向上と進路実現に向けた指導の充実が課題である。また、保護者に対する進路情報の提供に一層努めていく。	① キャリア教育の充実による職業観・勤労観の育成 ② 進路情報の発信と家庭との連携強化による進路指導の充実	ア 体験学習の充実 イ 保護者面談・個人面談の充実 ウ 進路指導スケジュールの周知や進路情報の提供 エ 専門学校進学者の卒業後の進路追跡調査	①総学や体験学習は計画のとおり実行できた。ボランティア活動へも積極的に参加した。 ②1年部では個人面談を2回以上、2年部では保護者面談を全クラスで実施した。3年部は就職や進学の出願前に三者面談を行った。 ③「歩一歩」の発行の他に、学期に1回進路通信を発行し、生徒と保護者への進路情報の発信に努めた。	①総学の時間、各種体験学習、ボランティア活動を通して、社会の一員という意識を持たせることができた。地域の活性化にも役立っている。 ②生徒の進路意識の向上と進路実現のため、年間スケジュールや進路状況をまとめた進路の手引き「歩一歩」は進路情報として活用されているが、専門学校卒業後の進路状況一覧は、在校生の指導に十分活用されていない。	B	①セルフプロデュースインターンシップを進め、積極的な進路活動につなげたい。 ②生徒を理解し保護者との連携を強めるために、面談をより充実させたい。 ③早い時期から進路について考えることができるように進路行事を充実させる。
4	専攻科入学者の確保が課題である。専攻科の魅力やこれまでの実績が、本科生や保護者、地域に理解されていない。 本科から専攻科に進学する生徒の確保のための方策を検討すべきである。	① 中学生やその保護者、地域関係者に対する専攻科の実績の一層のアピール ② 本科と専攻科との接続の一層の推進	ア 若年者ものづくり大会など各種競技会への出場 イ 地域企業及び高等学校関係者等を対象とするオープンキャンパスの開催 ウ 本科・専攻科の5年間一環の工業教育の確立 エ 高校入試前期選抜における専攻科志願者の確保	①若年者ものづくり大会旋盤職種とフライ盤職種の上位入賞、技能五輪フライ盤職種への出場を目指し技能向上に努めた。 ②毎年行われているオープンキャンパスに加えて、雄勝地域振興局と共催で「大人のためのオープンキャンパス」を実施した他、専攻科PR動画を制作しYouTubeにアップした。 ③高校入学者前期選抜の出願条件に、生産技術科への進学を目指す意思のある生徒を加えた。 ④工業科1、2年生に専攻科ガイダンスを実施した。	①若年者ものづくり全国大会フライ盤職種で敢闘賞を受賞し、技能五輪全国大会に初めて出場を果たした。 ②本科学年部の指導も功を奏して生産技術科では初めて定員を確保できたが、介護福祉科では定員が割れている。 ③前期選抜の出願者に生産技術科へ進学を希望する生徒はいたが中学校への周知は不足している。	B	①中高教員のためのオープンキャンパスにより専攻科を理解してもらおう。 ②本科から専攻科に進学し、就職して社会で活躍している先輩の進路講話を本科生に行う。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年2月24日
学校関係者評価と意見等	
<ul style="list-style-type: none"> ・処分を受けた生徒がひとりもいなかったことは素晴らしいことである。 ・いじめの指導はすぐに結果が出るものではないので、継続的に取り組んでほしい。 ・部活動の連絡は、顧問から生徒に伝えていても、生徒から親に伝わっていないこともあるのではないかと。親子のコミュニケーションの問題も関係していると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が受け身で授業を受けるのではなく、生徒を能動的にすることが大切である。生徒の主体性に火をつけるのは易しいことではないが、いいところを一点褒めるなどして工夫してほしい。 ・部活動などでは主体的に動いている生徒はいるはずなので、授業でもそうやってほしい。 ・基礎を身に付けさせることは大切である。「なぜ」を考えさせてほしい。生徒によっては十分噛み砕いて対応することも必要だと思う。 ・部活動同様に勉強でも生徒を鍛えてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・地元の技術のある会社実際に触れるのはとてもいいことなので続けてほしい。 ・1年生から職場体験ができるのは素晴らしい。有意義だと思う。 ・学校だけでは進路指導に限界があるので、振興局の事業などと一緒にとりたいと思う。 ・セルフプロデュースはとてもいいことなので、ぜひ進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年間一環の工業教育という発想はいいことだと思う。それを希望して入学した生徒がクラスの核になってくれるとよい。 ・学生の作品を市役所等に展示するなど、外にPRする機会をつくるといいのではないかと。